

平成30年度 学校評価 総括評価表

評価基準 A：十分に達成できた B：概ね達成できた C：十分には達成できなかった D：全く達成できなかった

平成30年度重点課題

- 1 学校運営体制の充実
- 2 人権教育の推進
- 3 学習指導の充実
- 4 進路指導の充実
- 5 生徒指導の充実
- 6 特別活動の活性化
- 7 安全教育と環境教育の推進
- 8 グローバル化に対応した教育の推進
- 9 特色ある学校作りの推進
- 10 情報教育の推進

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
1 学校運営体制の充実	①チーム市高としての調和と統一のある学校運営を図る。 ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る。 ③校内外での研修を通じて、指導力の向上を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A (所見)	会議を行わずに職員の連携の中で諸課題に取り組む事で「チーム市高」としての特徴を出す事が出来ている。 学校経営においては、多様な成果を上げており、市高らしさを出した取り組みを今後も継承してほしい。 生徒の立場に立った熱心な教育活動が展開されている。 ①入学時から卒業までの3年間を見通した教育の実践と学校目標の達成に向けて、各学年、各分掌、各教科等で途切れることなく教職員が連携し、引き続きカリキュラムの改善に努める。 ②コンプライアンスに関しては、年間を通じて機会ある毎に職員朝会で注意喚起するとともに、外部講師を招いての研修やeラーニングによる研修を引き続き実施する。 ③各種研修会や講習会・発表会等に関する情報を周知して参加を促すとともに、参加者による報告書の作成と全体での情報共有を推進し、指導力の向上につなげていく。	
		①教職員アンケートの「本校の基本方針である「学問」「スポーツ」「芸術」を3本柱とした教育がなされている」という項目において、「①よくあてはまる」の回答率90%以上をめざす。	①教職員アンケートの集計結果を見ると、「①よくあてはまる」は回答率62.9%で、指標の90%には27.1ポイント届かなかった。ただし「②ややあてはまる」を加えると回答率94.3%に達している。			②夏/eラーニングによるコンプライアンス研修(7/2～7/20) ※非常勤講師も受講 平成30年度コンプライアンス職員研修(8/6) 冬/eラーニングによるコンプライアンス研修(12/3～12/21) ※非常勤講師も受講
		②職員全体でのコンプライアンス研修会を年3回実施する。	②夏のeラーニングによるコンプライアンス研修(7/2～7/20) ※非常勤講師も受講 平成30年度コンプライアンス職員研修(8/6) 冬のeラーニングによるコンプライアンス研修(12/3～12/21) ※非常勤講師も受講	③「目標管理シート」の研修の項目の達成率90%以上を目指す。		③「目標管理シート」に自ら掲げた研修内容については、94.8%の者が取り組むことができた。
		活動計画	活動計画の実施状況	①管理職と各課(室)長・各学年主任が中心となって、各課(室)・各教科・各部活動等がお互いに報告・連絡・相談を密にして調整を図ることにより、全体としてバランスのとれた教育活動を展開する。 ②外部講師による研修会を実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。		①会議の縮減や業務の効率化等の観点から、会議という形はとらず、普段の取組の中で連携を密に取り合うことで諸課題に対応してきた。23に及ぶ各種委員会については必要に応じて開催し課題に対応した。 ②県教育委員会からコンプライアンス推進室長を講師に招いて、8/6に非常勤講師を除く全教職員を対象にコンプライアンスに関する職員研修を実施した。

		<p>③教育委員会による学校計画訪問等も含め、職員研修・研究授業を計画的に実施するとともに、先進校の視察や予備校等の授業力研修に積極的に参加する。</p> <p>③全教職員(講師を除く)が、育成評価システムの「目標管理シート」を効果的に活用する。</p>	<p>③計画訪問時に英語・情報で研究授業を実施し、他に初任者研修や10年次研修における研究授業も実施し、授業力向上に努めた。また「夢実現応援事業」において、現時点で英語・国語・公民・書道の教員が先進校視察を行い、スキルアップに取り組んだ。</p> <p>③「目標管理シート」の当初申告時と最終報告時に校長面接を実施した。また、常勤講師についても同時期に校長面接を実施した。</p>	<p>の向上に各自取り組むことができた。</p>	
2 人権教育の推進	<p>①人権ホームルーム活動の充実を図る。</p> <p>②人権委員会を中心とした生徒の自主活動の充実を図る。</p> <p>③人権教育職員研修会の充実。</p>	<p>評価指標</p> <p>①1年生は6回、2年生6回、3年生は6回以上の人権ホームルーム活動を確保する。</p> <p>①1年生は1回、2年生は1回の先行授業を行い、全学年での公開授業を目指す。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①HR活動 1年生…6回、2年生…6回、3年生…6回</p> <p>①先行授業 1年生…3回、2年生…3回、3年生…3回 全学年で人権ホームルーム活動に際して先行授業を実施し、全教職員に案内して授業は公開とした。</p>	<p>総合評価 (評定) A</p> <p>(所見) ①年度当初に作成した人権教育年間計画に基づき、人権ホームルーム活動の実施、それに伴う先行授業については、ほぼ目標通りの成果をあげることができた。3年生に実施した人権問題意識調査では8割以上の生徒が「市高での人権教育は充実していた」と回答した。これまでも目標としてきた、生徒が主体的に参加できる授業形態、生徒が人権問題を「身近」なものとして捉えられる授業内容を、引き続き探究したい。</p> <p>②人権委員会の活動は、年間を通して活発に行うことができた。上の①でも述べたように生徒主体の人権ホームルーム活動の実現に向けて、人権委員の活躍に期待したい。昨年度は参加者がなかったが、「交流会」への参加者があったことも評価に値する。</p> <p>③人権教育職員研修は、</p>	<p>先行授業は学年内の調整をする上で重要な活動だと思われるので、今後も取り組んでほしい。</p> <p>これまでの取り組みが成果を上げている他、自主活動も活発になってきている。</p>
		<p>②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>②「市高人権新聞」は年間6回以上の発行を目標とし、記事には人権委員が書いたものを2つ以上掲載する。</p> <p>②「人権展」では模造紙16枚以上を目標とし、来場者100人以上を目指す。</p> <p>②「中・高生による人権交流集会」への参加を増やす。</p> <p>②「同和カルタ取り大会」で50名以上の参加を目指す。</p>	<p>②事前研修 1年生…3回、2年生…3回、3年生…2回</p> <p>②市高人権新聞を年間6回発行。</p> <p>②「人権展」で模造紙16枚以上を展示、来場者145名。</p> <p>②「中・高生による人権交流集会」に2名が参加。</p> <p>②「同和カルタ取り大会」は競技者として64名が参加。</p>	<p>②本校の自主活動は、人権委員会の活動に支えられている。生徒の負担も心配だが、生徒(人権委員)がファシリテーターとなって行う授業の実現、校外活動への積極的な参加も推進したい。その際、できるだけ負担増とならないような配慮が必要である。また、人権問題研究部の活動の活性化にも期待したい。</p> <p>③本年度の研修テーマは、差別解消三法に関する内容が中心で、これからの人権教育推進のためには欠かせない内容であった。しかし、講義形式の研修ばかりとなっていたので、ワークショップやフィー</p>	
		<p>③PTA研修は2回、校外研修は1回、校内研修は3回以上の開催を目指す。</p>	<p>③PTA研修は2回、校外研修は1回、校内研修は3回以上を開催。</p>		
	<p>活動計画</p> <p>①人権教育年間計画に基づき、各クラスの実態に即して指導を行う。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>①各学年で先行授業(公開授業を含む)を実施する。</p> <p>①1年次の最初と3年次の最後に、人権問題意識調査を実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①1年生は身の回りの差別を中心に学習した。2年生は歴史から差別を捉えることを目標にアイヌや同和問題を学習した。3年生は企業・就職・結婚を中心に学習した。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の前に、各学年担当より次回テーマの主旨説明や事前研修を行った。</p> <p>①各クラス担任を中心に先行授業を参観し、授業評価と感想を授業者に提出してもらい、相互の研修とした。</p> <p>①1・3年生に人権問題意識調査を実施し、データの分析を行った。</p>			
	<p>②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>②人権ホームルーム記録用紙を作成する。</p> <p>②「市高人権新聞」を発行する。</p> <p>②市高祭で「人権展」を開催する。</p> <p>②「人権啓発作品展」を実施する。</p> <p>②「中・高生による人権交流集会」へ参加する。</p>	<p>②人権ホームルーム活動の実施前に人権委員会を開き、次回テーマの主旨説明や事前研修を実施した。</p> <p>②各クラスの人権委員は、人権ホームルーム記録用紙を、活動当日または翌日に責任を持って提出できた。</p> <p>②各クラスの人権委員は、担当月の人権新聞作成について責任を持ってやり遂げた。</p> <p>②人権展のための調べ学習やレポート作成を、人権委員は積極的に行った。「知ろう、考えよう、人権。一よりよい社会を築くため」と題し、人権展では様々な人権課題の展示を実施することができた。</p>			

		<p>② 1月に人権啓発作品展を実施した。</p> <p>② 「中・高生による人権交流集会」に2名が参加した。</p> <p>③ 1学期に2回、2学期に1回、講師を招いての校内研修を実施した。内容は、5月に「ヘイトスピーチとの闘いから学んだこと」、7月に『差別解消三法』と学校の役割、10月にはPTAとの合同で「子どもの人権－虐待の実態について－」とした。</p> <p>③ 9月の県外研修は保護者・生徒・教職員の参加により京都大学を会場として実施した。上記10月の校内研修はPTAと合同で実施した。3学期の人権意見発表会はPTA研修の一環として位置づけている。</p>	<p>計画通り3回実施できた。PTA研修についても保護者の積極的な姿勢により、一定の成果は得られたと考える。多様な人権問題に対する教職員や保護者の要望に応えられるように、研修のあり方や内容は次年度も工夫していく必要がある。</p>	<p>ルドワークなどを取り入れた研修内容を計画していきたい。</p>	
3	<p>①授業日数・授業時数の確保に努める。</p> <p>②わかりやすく、魅力ある授業に努める。</p> <p>③学習習慣の定着を図る。</p> <p>④思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>⑤英語4技能を育成する。</p> <p>⑥多面的評価を図る。</p> <p>⑦学校図書館の「学習センター」とし</p>	<p>評価指標</p> <p>①授業時数を800時間以上確保する。</p> <p>②(1年)「学習のかたち週間」を1・2学期の初めに実施する。 (2,3年)「学習のかたち週間」を1学期の初めに実施する。</p> <p>②授業満足度80%以上を目指す。 ②校内授業参観週間を1・2学期に1回ずつ設定する。</p> <p>③定期考査前に家庭学習時間調査を実施し、3時間以上学習する生徒の割合を増やし、40%以上を目標とする。 ③毎月の学習計画表と長期休暇中の学習計画表を配布し、計画にたいする成果と課題について自己評価させ、面談を通じて支援・指導を行う。 ③自習室における学習環境の整備を図り、積極的な活用を促す。</p> <p>④補習授業での演習や実力テストでは、全教科において論述問題を出題する。 ④教科会を開き、論述問題についての出題や正答率について分析・検証を行う。</p> <p>⑤2019年度までに、年間3回以上、すべての生徒がネイティブと英会話を行うことができる環境づくりを進める。 ⑤英語外部検定を複数回受験できる機会を設ける。</p> <p>⑥すべての学年において、ポートフォリオを作成させる。 ⑥記録用のワークシートを10種類以上提供し、HR活動やIRPの時間などを利用して、活動や実績を記録させ、成果や課題について振り返りをさせる。</p> <p>⑦前期と後期の2回、教科主任に教科としての学校図書館に対するニーズの調査・検討を依頼し、状況の改善に</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①ほぼ昨年並みの授業時数が確保できている。 2学期末までの授業時数 昨年度 812 今年度 834</p> <p>②「学習のかたち週間」 1年 2回実施 2,3年 1回実施</p> <p>②授業満足度は80.0%で昨年より0.4%上昇した。 ②各学期に1度ずつ実施し、教員間で情報交換した。</p> <p>③1年生36.8%、2年生32.5%程度であった。それぞれ+0.8、+2.5と昨年度から微増。 ③学習計画表、学習記録を作成させ、目標の設定、振り返りや面談に活用した。</p> <p>③15,583名(1/18現在)の利用者</p> <p>④記述問題を出題し、思考力や表現力の育成に努めている。 ④教科会において、実力テストの出題についての協議・検討を行った。</p> <p>⑤1,2年生は3回、3年生は2回、すべての生徒がオンラインによる英会話レッスンを実施した。 ⑤民間の英語検定であるGTECを校内で3回実施した。また、英語検定の案内、受付を随時実施した。</p> <p>⑥全学年で活動履歴をポートフォリオへ記録させた。 ⑥12種類のワークシートとファイルケースを常設した。</p> <p>⑦読書感想文－全員提出(318名) ⑦図書館便りを10回発行(1/18現在)</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>①わかりやすく生徒にとって魅力ある授業を目指し、校内授業参観等を通して、今後も努力を継続したい。</p> <p>②授業参観や授業評価を通じて、授業改善に取り組み、生徒の満足度も上がっている。</p> <p>③学習時間の確保の重要性は感じているものの、部活動との両立で時間の確保が難しい状況もうかがえる。</p> <p>④思考力、表現力の育成のための継続した取り組みに課題が残った。</p> <p>⑤事後の指導の拡充が必要である。</p> <p>⑥1年生では定期考査毎に学習への取り組みに対する振り返りと、ポートフォリオ</p>	<p>数値目標のうち③の項目が達成されなかったが、目標値と大きな開きもなく、他の項目の達成度が高い。</p> <p>①行事日程の見直しや行事の精選によって時数を確保できた。</p> <p>②校内授業参観や教科会議が、授業力や指導力の向上に十分機能するよう時間の確保を含め、充実させる。教科会議は学年教科会の充実もはかりたい。授業参観や授業評価については、実施率が100%となっていないので、今後参加を呼びかけていく必要がある。また、アクティブラーニングやICT教育等新しい教育の形も生まれて来ているので、新旧教員がお互いに学び合う意識を作ることが重要である。</p> <p>③早期からの学習習慣の定着のために、学年や教科で連携して、情報共有や対策に取り組む必要がある。</p> <p>④共通テスト、新学習指導要領を見据え、評価のあり方を見直していきたい。</p> <p>⑤リフレクションシートなどを活用し、4技能の定着・向上に向け、英語科と連携して取り組んでいきたい。</p>

ての機能充実を図る。

⑧自ら学び、考え、判断できる主権者を育成する教育の充実を図る

取り組む。
⑧新聞発表を通じて、新聞を読む習慣のない生徒の割合40%以下を目指す。 ⑧各学年において、主権者教育に関わる講演や模擬選挙などを1回以上行う。
活動計画
①行事を精選し、授業カットや短縮はなるべく避け、振り替え授業を徹底する。 ①45分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始める。
②学期の最初の1週間を「学習のかたち週間」とし、全教科科目で実施する。予習・復習・ノートのとり方・授業に臨む態度など望ましい学習習慣の定着に努める。 ②教科会議で話し合い、授業方法の改善に努める。生徒による授業評価を行う。 ②校内授業参観週間では授業参観カードを有効に利用し、教師相互の授業改善に努める。
③週間課題・日々の課題で学習の習慣化を図る。 ③家庭学習時間調査の期間を学習強化週間と位置づけ、学習習慣の定着を促進する。
④補習授業の計画・実施や実力テストの作成などの機会を活用し、思考力、判断力、表現力の育成を図る。
⑤ICT環境の整備を計画的に進める。 ⑤英語外部検定の受験機会を拡充するとともに、取得に向けた対策を講じる。
⑥IRPやキャリア教育と連携して取り組む。 ⑥ポートフォリオに基づき、生徒の活動について多面的に評価を行う。
⑦「月刊高校教育」(学事出版)は入荷時に、特集記事等を職員朝会連絡で案内し、利用促進を図る。 ⑦6月と11月にニーズ把握のための調査を実施する。 ⑦徳島県立図書館の協力貸出サービス等も活用し、ニーズへの対応体制を整える。
⑧夏季休業中の課題として、地歴・公民科でレポートを提出させることで表現する力を向上させる。 ⑧公民科において、新聞を使った発表を行い、社会問題

⑦開館日数 184 日で、年間利用延べ人数 7,467 名、一般貸出冊数 1,406 冊。(1/18 現在)
⑧新聞を読む習慣のない生徒の割合は 36.4%で、昨年と比べ 8.0%改善した。 ⑧各学年 1 回ずつ実施すると共に、HR や教科において事後指導をした。
活動計画の実施状況
①出張・年休は可能な限り振り替え授業で対応した。授業時数の確保については、全職員共通認識の上で定着しつつある。
②1, 2 年生生徒対象進路講演会、職員対象進路研修会を実施し、進学への心構えや取り組み方、進路指導技術について学んだ。 ②1・2 学期末に授業評価をし、生徒の意見を授業に反映させると共に、教科会で授業改善に取り組んでいる。 ②参観者の感想を授業担当者に渡し、授業改善の参考にしている。
③課題をとおして、学習習慣の定着に向けて取り組んでいる。 ③ホームルームにおいて、あるべき集団づくりの機会として活用した。 ③自習室を平日 8:30~19:00、休日 8:30~16:30 に年間を通じて開放した。1 月 18 日まで 269 日開放。
④主体的な学び、思考力、判断力、表現力の育成を踏まえた、補習授業の計画、実力テストの作成を行った。
⑤同時にオンラインで使用できるタブレットを 22 台購入した。 ⑤民間の英語検定である GTEC を校内で 3 回実施した。また、英語検定の案内、受付を随時実施した。
⑥IRPの年間の活動計画に盛り込んだ。 ⑥12 種類のワークシートを用意し、活動履歴をポートフォリオへ記録させた。
⑦毎号職員朝会連絡で案内したが、なかなか利用には至っていない。 ⑦図書館では図書館便りで新着・推薦図書を案内するとともに、IRP の探求学習に関するコーナーを新設し、貸出冊数の増加に努めた。
⑧1 年生の科目「現代社会」の夏休み課題として地域調べの課題を出し、教科で評価した他、クラスで発表会を行い、IRP の北海道調べに活用した。

の作成を行った。

⑦図書委員の活動による読書習慣の定着、開かれた学校図書館への取り組みは、成果を上げ、昨年度と比較して利用者数は大幅に増加した。しかし、貸出冊数はやや減少し、課題が残った。

⑧公民科の授業だけではなく、生徒会役員選挙や HR、総合学習の時間等に社会への関心を高め、意見交換をする時間を設けた。生徒アンケートによると、年度初めに新聞を読む習慣のない生徒が全体の 3/4 を占めていたが、うち半数が少し読むようになったと回答している。また、従来読む習慣のあった生徒もより深く記事を読むようになったり、依然読む習慣がない生徒もニュースを見るようになったと回答しており、社会への関心が高まっている考えられる。

⑥ポートフォリオを活用して、学習の振り返りを充実し、学力の向上につなげたい。また、ポートフォリオをとおして、多面的・総合的評価の充実を図りたい。

⑦読書習慣の定着と図書館利用の促進、特に「読書の面白さ発信」に引き続き取り組んでいきたい。

⑧新聞を取っていない家庭やネットニュースで情報を入れる者が増えているが、その分学校での新聞記事提供の意味合いが高まっていると言える。今後も昨今の社会情勢の変化に対応し、より一層高校生の社会的関心を高める取り組みを進めていきたい。

		への関心を高める。 ⑧各学年において、公民科の授業や総合学習における講演や体験的学習等を通じ、生徒の意識を高める。	⑧1年生全クラス・3年生文系クラスにおいて、新聞を使った発表を行い、生徒同士の意見交換の時間も盛り込んだ。 ⑧1学年模擬選挙、2学年アクティブラーニングを交えた講演、3年生は年金セミナーを実施し、社会参画の意義について考えた。		
4 進路指導の 充実	①生徒一人ひとりの 進路希望の実現に 努める。 ② IRP 活動の充実を 図る	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定)	まだ結果が出ていない項目もあるが、概ね進路面の目標は達成できそうな様子である。 英語のオンラインの授業対応システムは、学校の特色の一つとして進めていってほしい。 ポートフォリオについては、教育支援システムによる管理が進められるようなので、しっかり準備をしていってほしい。 IRP活動は実施内容が充実しているの、広く発信する手法を検討していってほしい。 ELCASでの経験を報告する場を設け、新しい学力観に基づいた学びの場を作り上げていってほしい。
		①すべての生徒の進路について複数の教員で考える、進路検討会を下記の回数実施する。 (1,2年)年間2回 (3年)年間5回 ①生徒・保護者・担任の三者面談を年間2回確保する。 ①生徒と担任の二者面談週間を年間3回実施する。 ①難関大学(旧帝大・東工大・一橋大・神戸大・国公立大医学部医学科・早稲田・慶応)の合格者数30人以上を目標とする。 ②IRP活動(市高レインボウプラン)の生徒満足度70%以上を目指す。 ②京都大学ELCAS参加者校内で5名以上、サイエンスフェスティバルは全国発表の機会を得る。 ②IRP「徳島を調べよう」「徳島を考えよう」において、地域での調査を各自が3回以上もち、レポートを作成する。	①1年1回、2年1回、3年5回実施した。 ①三者面談 1年2回、2年2回、3年3回実施した。 ①二者面談 1年2回、2年2回、3年4回実施した。 ①0名合格(1月18日現在) ②3年生IRPについては教員IRPグループに1~2回程度の面接練習や講義を行う形式に変更した。志望理由書作りを行ったグループもある。満足度は69.8%だった。昨年71.2%。 ②京都大学ELCAS参加生は全学年で3名であった。サイエンスフェスティバルは1グループが全国発表を行った。 ②1年生は前半は「徳島を調べよう」後半は「北海道を調べよう」と題し徳島と北海道の比較を行った。最後にIRP発表会を行う予定である。また2年生は「徳島を考えよう」においてポスターセッションで中間発表会を行い、年度末には各自がレポートを作成し、ともに評価も試みた。ただし、調査回数は3回に満たないグループがあった。	----- A ----- (所見) ①1,2年生の学習習慣の定着、進路意識の高揚を図るための学年・教科における情報共有や協議・対策が不足している。また、学力を多面的・総合的に評価する上級学校も増加しており、これに対応する支援体制の構築が必要となる。 ②IRPにおいては地元徳島を対象化し、探究活動を実施するとともに調査・研究方法も学ぶことができた。また、京大、徳大を中心として高大連携事業を実施し、学知を活用し受験情報に偏らない興味や関心を喚起した。	
		活動計画	活動計画の実施状況		①次年度、学力向上研究会を立ち上げ、学力の分析、学習習慣の定着、進路意識の高揚のため、組織的に取り組みたいと考えている。具体的な方策を提示するように努めたい。また、高大接続改革、新入試制度についての情報収集に努め、教職員間で情報を共有するとともに、生徒や保護者への情報提供を拡充していきたい。 ②「徳島調べ」は市高の利点を活かし、市役所との連携を更に深めるべきである。また各教科との連携も持つことで授業改善や教員の教育活動の幅を広げる可能性に結びつけるべきである。高大連携は引き続き徳大、京大を中心とした事業を展開し、イベントに終わらない継続教育をさらに発展させるべきである。昨年度より、徳大教養教育院・総合科学部と「多言語ラボ」を開設したが、英語だけに終始しない多文化を学ぶ工夫がさらに必要である。また、次年度に徳大医学部との「ジュニアスチューデントラボ」は公募制となるため、積極的な参加を促していきたい。

		②京都大学との高大連携事業を実施し、広い教養のもとに最先端の学知にふれる。	②京都大学 ELCAS は、3名が理系分野（化石、測地学、太陽観測、光の性質等について）の実習に参加し、広く知識を得て考察できていた。1月には発表会にて発表を行った。			
5 生徒指導の充実	①集団生活におけるルールを遵守させ、マナーの向上を図る。 ②遅刻防止の指導の充実を図る。 ③特別なニーズを有する生徒について、支援体制を整える。	評価指標 ①登校指導を毎日行う。 ①生活指導の集会を年5回以上実施する。 ①街頭交通指導を年20回以上実施する。 ①年2回以上いじめに関するアンケートを行う。	評価指標の達成度 ①4月、5月毎日 6月以降適宜行う。 ①全校集会を4回実施し、学年集会を1年6回、2年6回、3年10回実施した。 ①交通マナーアップ10回、学校安全の日10回実施した。 ①7月と12月にアンケートを行った	総合評価 (評定) A (所見) ①計画的に、また臨時に集会を実施し、ルールの遵守やマナーの向上を図った。 ②遅刻者数は毎年減少傾向と思われる。しかし、特定の生徒が目立つ状況であり生活習慣の指導を徹底する必要がある。 ③校内外の研修等を通して、教育相談・特別支援担当者の知識の習得やスキルの向上を図ることができた。	いじめアンケートは指標としては実施回数だけでなく、活用の仕方なども盛り込んだ方がよい。 交通指導については、部活動を活用したり、自転車の利用法の周知徹底をするとともに、時間に余裕のない生徒がいるようなのでその指導法についても検討して欲しい。 ②来年度も根気よく指導継続したい。 ③特別なニーズを有する生徒への支援方法に関する研修等を、担当者以外にも広げられるよう努めていきたい。	①あいさつ運動は毎週月曜日から年度も実施したい。 ②来年度も根気よく指導継続したい。 ③特別なニーズを有する生徒への支援方法に関する研修等を、担当者以外にも広げられるよう努めていきたい。
		活動計画 ①年間計画に基づいて指導にあたる。 ①生徒会・交通委員とともに挨拶運動を展開する。 ①学年集会、全校集会で指導する。 ①毎月の交通マナーアップ運動の日、学校安全の日に街頭指導をする。 ①いじめアンケート結果に基づいて面談を行う ②遅刻理由を把握し指導する。 ②遅刻の多い者には各学年団で指導を行う。 ③1、2学期に1回ずつ以上、SCの小倉先生にアドバイザーを依頼し、模擬面談等を手立てに、体験型の研修会を実施する。	活動計画の実施状況 ①生徒指導年間計画に基づいて適切に行った ①生徒を主体とするあいさつ運動は生徒会、交通委員とともに達成できた。 ①集会における指導は問題行動を防ぐ、交通マナー等生徒の健全育成に努めた ①毎月10日マナーアップ運動、20日学校安全の日、職員交通委員とともに達成できた。 ①各担任アンケート結果を配布した。 ②遅刻理由を把握し、適切な指導が行えた。 ②各学年において遅刻指導を行った。 ③夏季休業中に集中して、ロールプレイを交えた研修を実施することができた。			
6 特別活動の活性化	①部活動の活性化に努める。 ②ボランティア活動や生徒会活動を活性化	評価指標 ①部活動加入率 80%以上。 ①四国大会以上の大会への出場部数10部以上。	評価指標の達成度 ①部活動加入率 1年 110.3% 2年 100.0% 3年 95.6% ①四国大会以上の出場部数 四国大会 16部 全国大会 14部	総合評価 (評定) A (所見) ①②部活動が活発に行われており、生徒の満足度は高いと思われる。さらなる充実	熱心に取り組んでくれていたので、引き続き頑張ってもらいたい。	①継続して加入率の増加に努めるとともに、競技実績のアップにも努めていきたい。 ②校内ボランティアは年3回の実施を継続して実施したい。
		②校内ボランティア活動を年3回実施する。 ②年3回生徒会新聞「フリーダム」を発刊する	②校内ボランティア活動を年3回実施した。 ②生徒会新聞「フリーダム」を3回発刊した。			

		<p>活動計画</p> <p>①勉強と部活動との両立をHR活動や学年集会等で指導する。 ①部活動紹介・壮行会・表彰伝達式で意識の高揚を図る。</p> <p>-----</p> <p>②校内や周辺地域のボランティア活動を積極的に行い、豊かな人間性や社会性を育てる。 ②生徒会の活動をフリーダムに掲載することにより愛校心を養う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①新入生オリエンテーションで部活動と勉強の両立を指導するとともに、部活動紹介で部活動に加入することを指導した。 ①総体・四国総体・インターハイ・国体壮行式を実施した。表彰伝達式を8回実施し、全校生徒に報告した。</p> <p>-----</p> <p>②1年生は1学期、2年生は3学期に清掃ボランティアを実施。防災委員会で近隣住民に防災マップを作成し配布した。 ②生徒会新聞を作成し、生徒の健全育成に努め、愛校心を養うよう努めた。</p>	<p>感が得られるような指導の取り組みが求められる。</p>	<p>②生徒会新聞「フリーダム」の内容をもっと充実したものにしていきたい。</p>	
7	<p>安全教育と環境教育の推進</p> <p>①資源の有効利用や環境負荷の軽減、環境保全など、地球にやさしい学校作りに積極的に取り組む。</p> <p>②防災意識を高め、災害時に自らの命を守り、落ち着いて行動できる能力の育成に取り組む。</p> <p>③安全教育を推進するとともに、安全管理の一層の充実を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①節電・節水に努める。 ①ゴミの分別、減量化に努める。 ①リデュース、リユース、リサイクルに努める。 ①環境委員による校内美化活動を年間10回実施する。 ①学校周辺地域の清掃活動を年間2回以上実施する。</p> <p>-----</p> <p>②防災について関心の高い生徒の割合を80%以上にする。 ②生徒の防災士資格取得者を育成する。</p> <p>-----</p> <p>③保健委員会の環境衛生管理を年間15回以上実施する。 ③心肺蘇生法等に関する職員研修を年1回以上実施する。 ③保健だよりにより保健委員会コーナーを設け、年間10回以上発行する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①校内美化活動 11回実施</p> <p>①学校周辺地域の清掃活動 3回実施</p> <p>-----</p> <p>②防災に関心の高い生徒の割合 64.9% 昨年度 64.1% 一昨年度 64.2%</p> <p>③防災士は5名が受検し、全員合格した。</p> <p>-----</p> <p>③保健委員会による校内環境衛生管理を年間25回実施することができた。 ③緊急時の対応について、繰り返し周知徹底を行うとともに、心肺蘇生法・アレルギー対応研修を1回実施した。 ③保健だよりを年間11回発行することができた。3年生による保健委員会コーナーも好評を得ることができた。</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①「新学校版環境ISO」を継続し、「環境目標」、「行動方針・実施方法」、「役割分担・組織」などを掲示した。また環境委員を中心に省エネについて各クラスで呼びかけを行うなど、活発な活動を行う事ができた。使用電気量においては、昨年と比較すると減少し成果をあげることができた。校内美化・ゴミの分別に対する意識は年々向上してきており、今後も継続的に啓発活動に取り組みたい。</p> <p>②年2回の防災訓練を充実したものにし、防災意識を向上させ、自分はもちろん身の周りの人の生命を守るために日頃どのような準備・心づもりをすべきかの啓発活動を工夫していく必要がある。防災委員会の活動が、主体的</p>	<p>立地上防災教育の必要性の高い学校なので、「防災について関心の高い生徒」の割合は現在の数字を目標に、それを実現させられるような取り組みを今後も続けていってほしい。</p> <p>市立高校と言うことで他の県立高校とは防災自主活動などに差が生まれるが、校内外の制度を活用しながら推進していってほしい。</p>	<p>①環境委員の活動は活発に行われているのだが、一部の生徒はそのような活動にあまり関心がないように思われる。生徒総会で「ゴミの分別をきちんとすべきだ」という意見がでたり、有志による清掃活動が見られた点は大きな進歩であると思われる。省エネについての関心をさらに高め、今年度以上に使用電気量を減らせることができるような啓発やアイデアを探りながら活動していきたい。</p> <p>②様々な状況での被災を想定した訓練を実施する必要があると思われる。地域と共同で行う訓練も計画していく必要がある。防災委員会の活動を広げ、生徒の防災意識の高揚を図るとともに、地域の方々の連携を深めていきたい。</p> <p>③保健委員会の活動は、継続して続けていきたい。保健だよりにも保健委員によるコーナーを設け、工夫することができた。次年度も継続していきたい。職員研修については研修日を複数設定するなど出席しやすい工夫をし</p>
		<p>活動計画</p> <p>①毎月の電力、水道使用量を調べ、昨年同期との比較を行い、結果を全校に知らせる。 ①スイッチや蛇口に節電・節水と呼びかける表示を貼り、注意を促し、使用していない教室等の照明をこまめに消す。 ①ゴミの分別を徹底する。 ①ペットボトルの分別回収、古紙の回収をおこない、印刷紙の裏面利用の徹底を図る。 ①環境美化に関するポスターや標語を作成する。 ①環境委員による校内美化活動を実施する。 ①学校周辺地域の清掃活動の日を設け、全校生徒で清掃奉仕活動を実施する。 ①定期的に校内放送で、環境美化や省エネについて、全校生徒に呼びかける。</p> <p>-----</p> <p>②年2回防災訓練を実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①毎月の使用電気量及び電気代を調べ、過去2年間と比較したものをグラフにして掲示する事により、より一層節電意識を高めていった。また、事務室との連携により集中管理を行い成果を上げることができた。 ①ゴミの分別ができていないクラスや清掃場所をチェックし、そのたびに注意勧告を行う事により、分別状況が改善されるようになった。 ①ペットボトル、紙パックの分別回収を行ったり、職員室では印刷用紙の裏面使用の徹底を進めた。 ①ペットボトルのリサイクル方法を見直し、不燃物や粗大ゴミの廃棄のルールについて再考を進めた。 ①環境委員による学校行事前の校内美化活動を実施した。 ①校外清掃活動を企画し、地域周辺の清掃活動を行った。</p> <p>-----</p> <p>②1,2学期にそれぞれ防災訓練を1回ずつ(計2回)実</p>			

		<p>②授業を通して、自然災害についての理解を深め、防災意識の向上に努める。</p> <p>②防災通信を職員・HR に配布し、意識の向上に努める。</p> <p>②防災委員会を組織する事で、生徒の研修の機会を増やし、地域と連携した活動を行う。</p>	<p>施した。反省点を改善し、避難隊形を見直し 5 分短縮することができた。また、2 次避難場所のキャバの確認を行うことができた。</p> <p>②各教科において適宜自然災害についての話題を授業に取り組み実施した。</p> <p>②防災委員会において大学から講師を招き話し合う中で防災リーダーとしての意識を高めることができた。</p> <p>② HP や掲示物で情報発信することができた。</p> <p>②備蓄庫の場所、物品の確認を行うことができた。</p>	<p>で継続的な活動になるよう環境を整えることが喫緊の課題である。</p> <p>③保健委員会の活動や保健だよりにより、安全や健康に関する意識を高めることにつながった。職員研修については、意義をあらためて考えてもらえるように働きかける必要がある。</p>	<p>ていきたい。</p> <p>③今年度から始めた食育タイムの発信についても継続していくとともに、食と健康についても関心をもって行動できるようにしていきたい。</p>	
8	<p>グローバル化に対応した教育の推進</p>	<p>①グローバル化に対応した教育を推進する。</p>	<p>①台湾姉妹校訪問研修参加者、ドイツヘルバルトギムナジウム交流会及びホームステイ受け入れ、徳島大学異文化キャラバン隊参加者、サギノー短期留学参加者、多文化共生講座の満足度 80 %以上を確保する。</p>	<p>①異文化キャラバン、サギノー短期留学、多文化共生講座ともに満足度は 80 %を大きく超えた。特に本年度は、台湾姉妹校交流、ドイツのギムナジウムとの交流会及びホームステイ受入、多言語ラボなどの多文化共生事業を実施し、幅広い参加者を得た。</p>	<p>様々な取り組みによりグローバル化に対応した教育が進められている。</p> <p>市高での経験が受験時や大学でも役立っているので、経験した生徒だけでなく、学校全体に体験が活用されていくような形がこれから期待される。</p>	<p>①各イベント毎に独立した参加者を確保するのではなく、継続的に参加者を拡大していく工夫が必要である。そのためには、事業自体を系統化し、位置づけを明確化することを要する。台湾、ドイツとの交流は、継続化させるためにも相互訪問などの機会を設けるべきである。</p>
		<p>評価指標</p>	<p>評価指標の達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見)</p> <p>①新たな事業を含め、世界各国の文化や言語を学び、また地元の徳島大学留学生との交流を活用しながら幅広いグローバル化に対応した教育を展開した。さらに NPO や諸団体の協力のもと、学内だけでなく、共に地域に向き、社会の中で交流する機会も設けた。</p>		
		<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>			
		<p>①自文化を理解するためにも、地元徳島の現状を学び、課題を発見し、解決法を模索できる思考力を育成する。そのためにも I R P において、徳島探究講座を実施し、地域に出向き、現状を理解する。</p> <p>①徳島大学教養教育院と協働し、異文化キャラバン隊への参加や、留学生訪問を通じて世界各地の社会や文化にふれる。</p> <p>①アメリカ・サギノーへの短期留学や、ドイツヘルバルトギムナジウム校、また、台湾・国立潮州高等中学との交流を通じて、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの高校生から幅広い知識を吸収する。</p>	<p>①グローバル化の基軸は地域、中でも地元理解にあり、地域の集合として世界を捉える視点を獲得できるかにかかっている。そのため徳島とより広い地域を結ぶ探究活動を実施した。徳大との連携事業もこれに大きく貢献した。</p> <p>①特に留学生や訪問者などに地元徳島を紹介するプログラムでは大きな成果を得た。多言語ラボは徳島大学留学生や教授から文化や言語を継続的に学ぶ講座となり、中国語・ドイツ語ともに登録者数が昨年より拡大し、47 名となった。その活動がマスコミにも取り上げられた。</p> <p>①サギノー短期留学、台湾・国立潮州高級中学との交流、ドイツヘルバルトギムナジウムとの交流では、異文化を直接に体験する機会となった。また、SNS 等を通じて交流を持っている生徒も多く、実質的な交流が拡大、継続している。</p>			
9	<p>特色ある学校作りの推進</p>	<p>①家庭・地域へ向け積極的に情報を発信する。</p> <p>②保護者と積極的に情報交換し、日頃</p>	<p>①学校ホームページへのアクセス件数 150,000件以上</p> <p>②PTA総会・各種研修会への参加率を増やす。</p>	<p>①アクセス数 192,541 件 (4/6 ~ 1/24), 昨年度 149,154 件</p> <p>② PTA 総会の参加率 24.7 % 昨年 25.4 % 3 年対象進路説明会 68.9 % 昨年 71.0 %</p>	<p>PTA 総会の参加率に若干課題があるようだが、他校でも見られる事象なので、工夫検討しながら状況改善に一層努力して行ってほしい。</p>	<p>①保護者、中学生、地域の方々のニーズに応じた情報の発信に努めたい。</p> <p>② PTA 総会の出席者数が低迷しているので、内容や運営方法について検討の</p>
		<p>評価指標</p>	<p>評価指標の達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見)</p> <p>①保護者宛文書リストをアップロードし、</p>		

	<p>の教育活動に生かす。</p> <p>③学校行事を充実させると共に積極的な公開に努める。</p> <p>1 市高祭の公開 2 体験入学の実施</p>	<p>③市高祭の入場者数 1000人以上を目指す。</p> <p>③アトラクション・表現展示・バザールの参加団体数 42以上を目指す。</p> <p>③体験入学参加者数 900人以上を目指す。</p> <p>活動計画</p> <p>①ホームページの更新を年に400回以上行う。</p> <p>②PTA総会の日程を工夫したり、配布物による案内だけでなく、ホームページを利用し、きめ細かい情報提供交換を行う。</p> <p>②PTA主催の各行事毎に、保護者へのアンケートを実施し、今後の活動の参考にする。</p> <p>③学校・保護者による作品展・交流を行う等、内容の充実に努める。</p> <p>③事前の計画を綿密に立て、魅力ある公開授業やわかりやすい説明に努める。</p>	<table border="1"> <tr> <td>③市高祭の入場者数</td> <td>1301名</td> <td>昨年</td> <td>1048名</td> </tr> <tr> <td>③イベント数</td> <td>7</td> <td>昨年</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>アトラクション数</td> <td>14</td> <td>昨年</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>表現展示数</td> <td>27</td> <td>昨年</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>食品バザール数</td> <td>8</td> <td>昨年</td> <td>8</td> </tr> </table> <p>③体験入学参加者 1151名（中学生：945 保護者 206） 昨年 1080名（中学生：910 保護者 170）</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>① 492件（4/1～1/24）</p> <p>② PTA 主催の学校教育活動の開催に際し、日程の工夫とともに、案内状の配布だけでなくホームページに掲載するなど、情報提供を行った。</p> <p>② PTA 家庭教育部主催文化教養講座でのアンケート結果より、内容については参加者全員の方が大変よかった又はよかったと回答しており、好評だった。一方、今年は参加者希望者が多く、役員の方々が参加から運営に回ってくださった。作品を制作することで、市高祭のPTAの展示にそのままつなげることが出来た。</p> <p>③生徒会役員を中心に市高祭ポスターを作成し、各中学校や高等学校へ案内した。また、地域住民には市高祭の案内の文書を各家庭に生徒が配布するなど、広報活動に努めた。</p> <p>③体験入学のポスターやチラシを事前に作成し関係中学校への広報活動にまわった。また、中学生が希望する授業を体験できるように時間割を組んだ。アンケート調査からは、96.3%（昨年約94.7%）の中学生が体験授業が分かりやすかったと感じており、（大変分かりやすかった昨年65.2%から66.5%）高校の授業の様子が分かり、進路決定の参考にしたいという感想があった。昨年度から部活動体験も実施し、高校の部活動の雰囲気を感じることが出来たと参加した中学生全員から好評価であった。</p>	③市高祭の入場者数	1301名	昨年	1048名	③イベント数	7	昨年	8	アトラクション数	14	昨年	13	表現展示数	27	昨年	26	食品バザール数	8	昨年	8	<p>端末から閲覧、出力できるように追加した。また、授業の様子を写真や動画で配信するなど、積極的な情報提供に努めた。</p> <p>②今年も午前中に PTA 総会と進路講演会を、午後から進路説明会を実施し、昨年とほぼ同程度の参加者だった。総会の出席率も上がるよう、実施形態や内容の検討を進めていきたい。</p> <p>③体験入学の参加者が毎年 1000 人を越えており、本校への関心を持っている中学生、保護者が多いことが伺える。特に今年は、体験授業が大変分かりやすかったと感じた中学生の割合が増加した。</p>	<p>必要がある。家庭教育部文化教養講座は会場の収容人数の関係もあることから、来年度は先着順にして、希望者が参加できるように努めたい。</p> <p>③体験入学は毎年好評で、今後もアンケートを実施し、アンケート結果を次回に反映するように努力したい。</p>
③市高祭の入場者数	1301名	昨年	1048名																						
③イベント数	7	昨年	8																						
アトラクション数	14	昨年	13																						
表現展示数	27	昨年	26																						
食品バザール数	8	昨年	8																						
<p>10 情報教育の推進</p>	<p>①情報教育を推進する</p>	<p>評価指標</p> <p>①年間3回以上、情報セキュリティやICT活用指導力向上等に関する研修会を実施する。</p> <p>活動計画</p> <p>①情報モラル教育年間指導計画を策定し、情報化の進展に適切に対応できる資質や態度を養う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①年度当初に校内情報システムについてのオリエンテーションを開いたほか、情報セキュリティに関する研修を2回実施した。県内外への研修会に多数参加した。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①情報モラル教育年間指導計画にもとづき、授業、ホームルーム活動、講演会をとおして、情報モラルの向上に取り組んだ。</p>	<p>総合評価 (評定) B (所見) ①ICT活用指導力向上のための支援が不十分であった。</p>	<p>これからの取り組みへの期待をこめてBとした。</p> <p>①アクティブラーニング実践のためのICT機器の拡充、活用方法に関する研修の実施などに課題がある。教職員の授業改善のための環境整備を進めていきたい。</p>																				